



## EU Risk Assessment — timing and outlook

### 欧州リスクアセスメントスケジュール

11月/12月	新たな健康影響報告書ドラフト提出予定
2007年3月	TC-NESでの環境と健康についての最終討議予定
2007年4月	REACH施行計画
2007年6月	リスクアセスメント最終結論の最短予定

### Dates for Your Diary

#### IAOIAのスケジュール

12月12-14日	PET2006コンファレンス (アムステルダム)
2007年4月19-20日	IAOIA会議 (アントワープ)

## Emission Data Gathering from Downstream Users Successful

### 川下ユーザー排出データ収集の成果

我々は顧客の協力を得て、環境及び職業暴露を計算するために必要なデータをEUリスクアセスメント担当当局に提出することができた。これにより「健康リスクはなし」、「環境リスクは低い」という現実に即した計算結果が得られることが期待される。

#### データは職業暴露が低いことを証明

- ・我々が収集した職場での吸入暴露と経皮暴露に関するデータの回収率は63%であった。ATOの年間消費量の63%に相当するデータが得られたのは多大な努力の結果であり、これによりATOの川下ユーザー産業全体の実態を代表する数値を導き出すことが可能になった。
- ・成型、調製、最終工程ごとの職業暴露データは過去に収集されていたが、今回のデータ収集により精度が高められ、不確実性は最小限に低下した。
- ・提出されたヒトの健康暴露報告では、リスク特性値はすべて公式の職業曝露限界値 (0.5mg/m<sup>3</sup>未満) を下回っており、今回提案された値がリスクアセスメント報告書第1ドラフトのモデル初期値に置き換わることが期待される。

#### データは環境暴露が低いことを証明

- ・環境暴露に関しては、主要国 (ドイツ、フランス、イタリア、イギリスなど) のほとんどの分野について工場ごとの情報が提出された。利用可能なデータの汎用度と完成度は分野ごとで大きく異なっている。排出係数が十分ではなかったため、工場の特異性に鑑みた曝露シナリオだけでなく一般的な曝露シナリオも計算しなければならなかった。
- ・ほとんどの川下ユーザー分野に関してすべてのリスクが取り除かれた。しかしながら、繊維業界では水、土壌、底質に対するリスクが、ガラス業界では底質に対するリスクが残っている。この問題を解決し、現行の結論III (リスク削減が必要) を結論II (リスクなし) に変更するためには、河川の流速データと汚泥が農地に拡散しないという確証が収集される必要がある。

報告結果からはより詳細な情報が入手可能であり、[kvdv@iaoia.be](mailto:kvdv@iaoia.be)に請求して下さい。

IAOIAは貴社の協力を感謝致します

## Preparation for REACH REACHへの対応

REACHは2007年4月に施行される予定であり、IAOIAは他の産業団体同様、REACHへの対応を準備し、REACH対応コンソーシアム結成の可能性を検討している。IAOIAは11月30日に討論会の開催を予定している。そこでコンソーシアムのガイドライン案や費用分担案を策定する必要がある。ATOや垂直コンソーシアムATOSの成功体験は、IAOIAがその他のアンチモン化合物でもコンソーシアムを結成する時期に来ていることを意味する。

IAOIAはアンチモン化合物の生産者、ユーザーに将来のREACH登録に際しての体制作りの観点から我々とコンタクトを取るよう奨励する

## EU Risk Assessment EUリスクアセスメント

ATOは12月のTC-NES会議では議題にならない見通しである。川下ユーザーの環境とヒトの健康暴露報告は10月と11月にスウェーデンの担当当局に提出されたが、担当当局はヒトの健康影響部分の修正をまだ完了していないため、次のリスクアセスメント報告書ドラフトは2006年末ないし2007年初めと見込まれる。

従って、環境とヒトの健康についての討議は3月か6月のTC-NESになる可能性がある。

しかし、リスクアセスメントの最終結論の予定は2007年のままである。

IAOIAは今後も担当当局と緊密に連絡を取る努力を続けてゆく。TC-NESの討議の前に二者会議を行うことが望ましい選択である。

## Summary assessment of genotoxicity of ATO soon to be published ATO遺伝毒性評価概要はまもなく発表

EUリスクアセスメントのために実施された研究の結果によれば、ATOの21日間反復暴露では生体内の突然変異原影響は現れなかった。“ラットの骨髄における小核と染色体異常の評価”と題するこの研究は、2005年にIAOIAの資金援助で実施され、まもなく国際的な医学誌「Mutation Research」で発表されることになる。論文は現在印刷中である。

## Updated List of IAOIA Members: 最新のIAOIAメンバーリスト IAOIAメンバーの最新リストは、[www.iaoia.org](http://www.iaoia.org) で閲覧可能

これらの企業は、アンチモン製品市場を守るために、政府機関への適切な対応及び信頼出来るデータの開発や提供などの活動に奮闘しています。活動費用や人的貢献はこれらの企業が分担しています。貴社は、これらの企業をビジネス相手として選択することによって、我々の業界を支援することになります。貴社がアンチモン製品の生産者、流通業者、消費者であり、こうした取り組みに貢献する意志があるならば、IAOIA、日本鉱業協会、中国五鉱化工進出口商会または会員企業にコンタクトして頂きたい。

### Organisation of IAOIA IAOIA 組織

役職	氏名	e-mail アドレス	電話番号
議長	Dave Sanders	<a href="mailto:david.sanders@chemtura.com">david.sanders@chemtura.com</a>	+ 1 765/497 6319
副議長	Geert Krekel	<a href="mailto:geert.krekel@campine.be">geert.krekel@campine.be</a>	+ 32 14 601 549
経理	Gilles Ozoux	<a href="mailto:gozoux@pcdlucette.com">gozoux@pcdlucette.com</a>	+ 33 (0) 243012310
事務局長	Karine Van de Velde	<a href="mailto:Karine.vandevelde@campine.be">Karine.vandevelde@campine.be</a>	+ 32 14 601 578
日本鉱業協会アンチモン環境安全対策協議会議長	町田博治	<a href="mailto:machida@nihonseiko.co.jp">machida@nihonseiko.co.jp</a>	+ 81 3 3235 0031
中国五鉱進出口商会	Huang Chongbiao	<a href="mailto:huangcb@minmetals.com">huangcb@minmetals.com</a>	+ 861068495302